



エコについての調査レポート

2008/11/18

株式会社ネットマイル
<http://research.netmile.co.jp/>

※本レポートについて、当社の許可なく無断転載・複写を禁じます。また、本レポートにかかわる損害賠償の責を一切負いません。
本レポートの転載、および一部引用が必要な場合には、お問い合わせフォームよりご連絡ください。

エコについての調査レポート

2008/11/18

調査概要

調査タイトル:	エコについての調査レポート
調査手法:	インターネットリサーチ（ネットマイル会員による回答）
調査票種別:	Easyリサーチ
実施期間:	2008/11/6 17:40 ~ 2008/11/7 16:29
回答モニタ数:	500

ネットマイルではエコについて、2008年11月6日から2008年11月7日にかけてアンケート調査を実施した。回答者の状況は「男性」「女性」各250名。年代は「10代」「20代」「30代」「40代」「50代以上」各100名。婚姻状況は「未婚」が54.8%、「既婚」が45.2%。居住地域は「北海道・東北地区」が15.4%、「関東地区」が37.8%、「北陸・甲信越地区」が9.8%、「東海地区」が9.8%、「近畿地区」が16.6%、「中国地区」が4.0%、「四国地区」が2.2%、「九州・沖縄地区」が4.4%であった。

回答の結果から、8割以上の方がエコに対して何かしらの関心を持っていることや、環境関連で高い関心を集めている項目が「地球温暖化」「リサイクル」「省エネ」であることがわかった。また、環境問題やエコに関する用語で認知度が高かった項目は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「排出権取引」、一方「グリーンコンシューマー」「環境経営」「低炭素社会」は、なじみが薄い様子が垣間見られた。

この他、エコ活動に取り組む理由として、“エコに関心なし”では「何となく」「仕方ないから」を挙げた人が6割弱を占めており、エコ活動に対して消極的な姿勢であることがわかった。

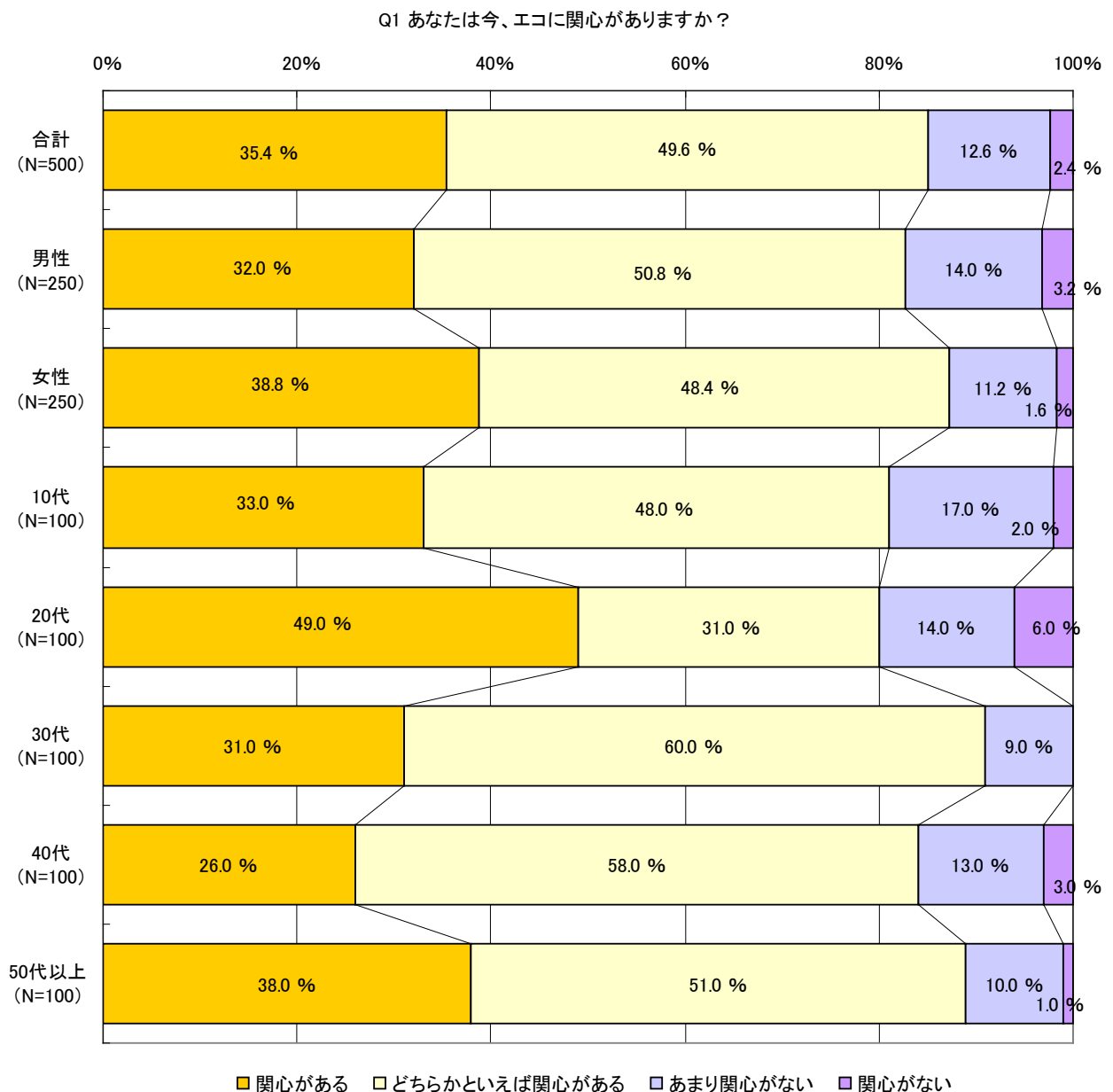
以下、それぞれの回答結果についてレポートする。

8割以上の人“エコに関心あり”

「あなたは今、エコに関心がありますか？」という質問を、「関心がある」から「関心がない」までの4段階評定でおこなったところ、全体では、「関心がある」35.4%と「どちらかといえば関心がある」49.6%をあわせた“エコに関心あり”の回答率が85.0%、「あまり関心がない」12.6%と「関心がない」2.4%をあわせた“エコに関心なし”の回答率が15.0%と、8割以上の人エコに対して何かしらの関心を持っているという結果であった。

年代別にみても、“エコに関心あり”は「10代」が81.0%、「20代」が80.0%、「30代」が91.0%、「40代」が84.0%、「50代以上」が89.0%という結果であった。一方“エコに関心なし”は「10代」が19.0%、「20代」が20.0%、「30代」が9.0%、「40代」が16.0%、「50代以上」が11.0%であった。

年代別に特徴的な項目をみても、「20代」で「関心がある」の回答率が他の年代に比べ高く5割近くに達した。



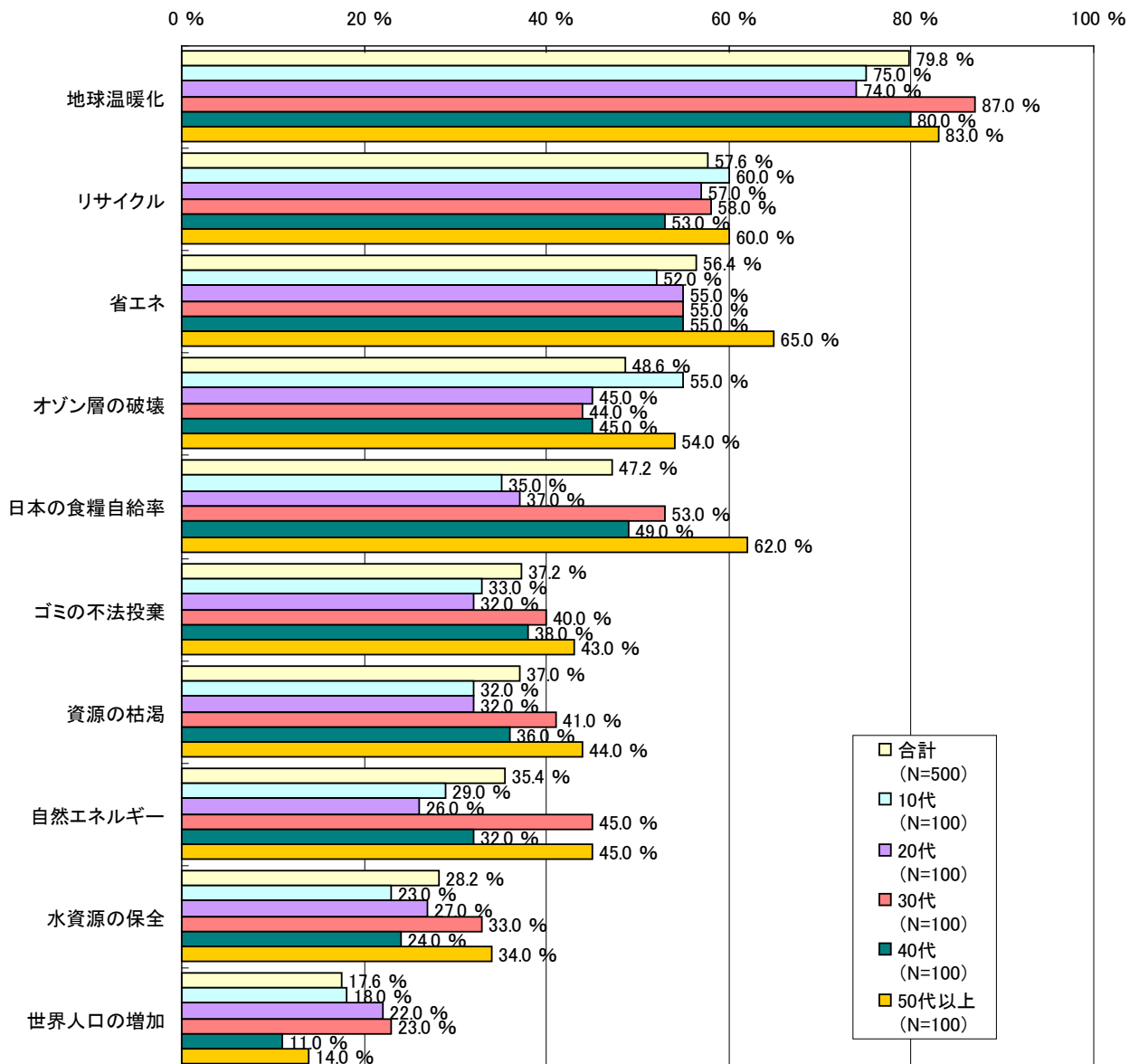
「地球温暖化」「リサイクル」「省エネ」に高い関心

「環境関連の項目で関心が高いものは何ですか?」という質問を複数回答でおこなったところ、全体では1位が「地球温暖化」79.8%、2位が「リサイクル」57.6%、3位が「省エネ」56.4%、4位が「オゾン層の破壊」48.6%、5位が「日本の食糧自給率」47.2%という結果であった。

男女別にみても、ほぼ全ての項目において男性の回答率を女性の回答率が上回っており、特に「リサイクル」「省エネ」「日本の食糧自給率」「ゴミの不法投棄」といった項目で、回答率に開きがみられた。

また年代別に特徴的な項目をみると、「省エネ」では「50代以上」、「自然エネルギー」では「30代」と「50代以上」の回答率が他の年代に比べ高かった。さらに「日本の食糧自給率」では概ね年代が上がるにつれ回答率が高くなり「50代以上」では6割を上回った。一方「世界人口の増加」では「20代」「30代」といった比較的若い世代で他の年代に比べ回答率が高く2割を超える結果であった。

Q2 環境関連の項目で関心が高いものは何ですか?
あてはまるもの全てにお答えください。(上位10位)



認知度高い項目は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「排出権取引」、一方「グリーンコンシューマー」「環境経営」「低炭素社会」はなじみが薄い様子

「環境問題やエコに関する用語や事柄についての認知度をおうかがいします。」という質問を8項目にわたって、「よく知っていて他人に説明できる」から「知らない」までの4段階評定でおこなった。

8個の項目を比較すると「よく知っていて他人に説明できる」と「ある程度理解している」をあわせた“理解している”については、「3) 3R(リデュース・リユース・リサイクル)」と「1) 排出権取引」が5割前後に達した。一方「知らない」の回答率が高かった項目は「7) グリーンコンシューマー」で5割以上、「5) 環境経営」で5割弱、「4) 低炭素社会」で4割以上という結果であった。

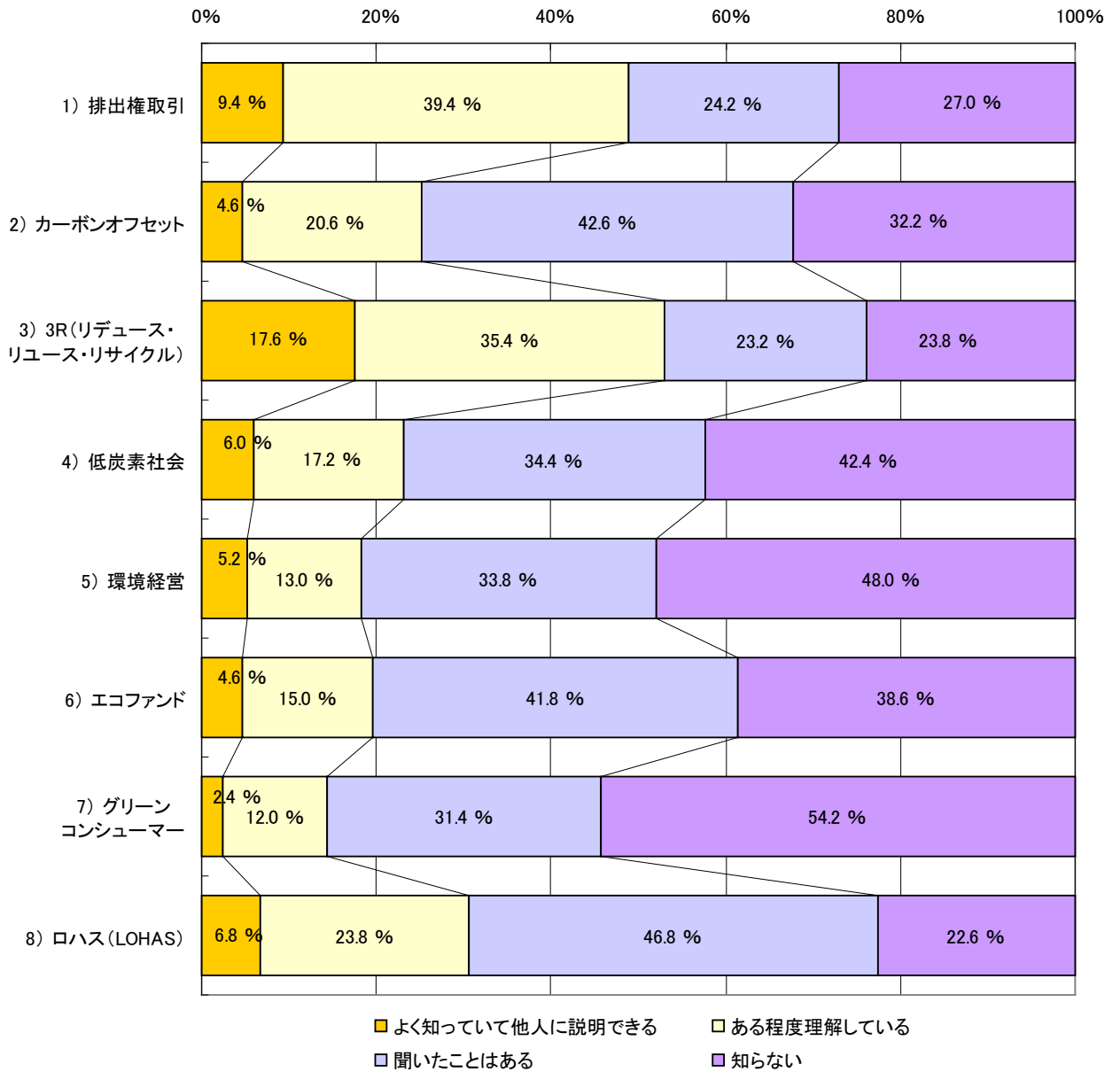
2008年5月にネットマイルで実施した同様の調査のなかで、今回も引き続き調査対象とした「排出権取引」「カーボンオフセット」「3R」の3項目についてみてみると、「排出権取引」では“理解している”が40.6%(前回調査)⇒48.8%(今回調査)、「聞いたことはある」が25.4%⇒24.2%、「知らない」が34.0%⇒27.0%、「カーボンオフセット」では“理解している”が15.6%⇒25.2%、「聞いたことはある」が29.4%⇒42.6%、「知らない」が55.0%⇒32.2%、「3R」では“理解している”が24.2%⇒53.0%、「聞いたことはある」が14.2%⇒23.2%、「知らない」が61.6%⇒23.8%と、半年ほどの間で認知が進んでいる様子が調査結果から見えてきた。

(※「3R」について、前回は「3R」、今回は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」として調査をおこなった。)

また、エコに対して関心があるグループと関心がないグループの比較において特徴的な項目をみてみると、“理解している”では「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「排出権取引」「ロハス(LOHAS)」といった項目で“エコに関心なし”に比べ“エコに関心あり”の回答率がかなり高かった。反対に、「知らない」では「グリーンコンシューマー」「エコファンド」「環境経営」といった項目で、“エコに関心あり”に比べ“エコに関心なし”の回答率が大幅に上回るという結果であった。

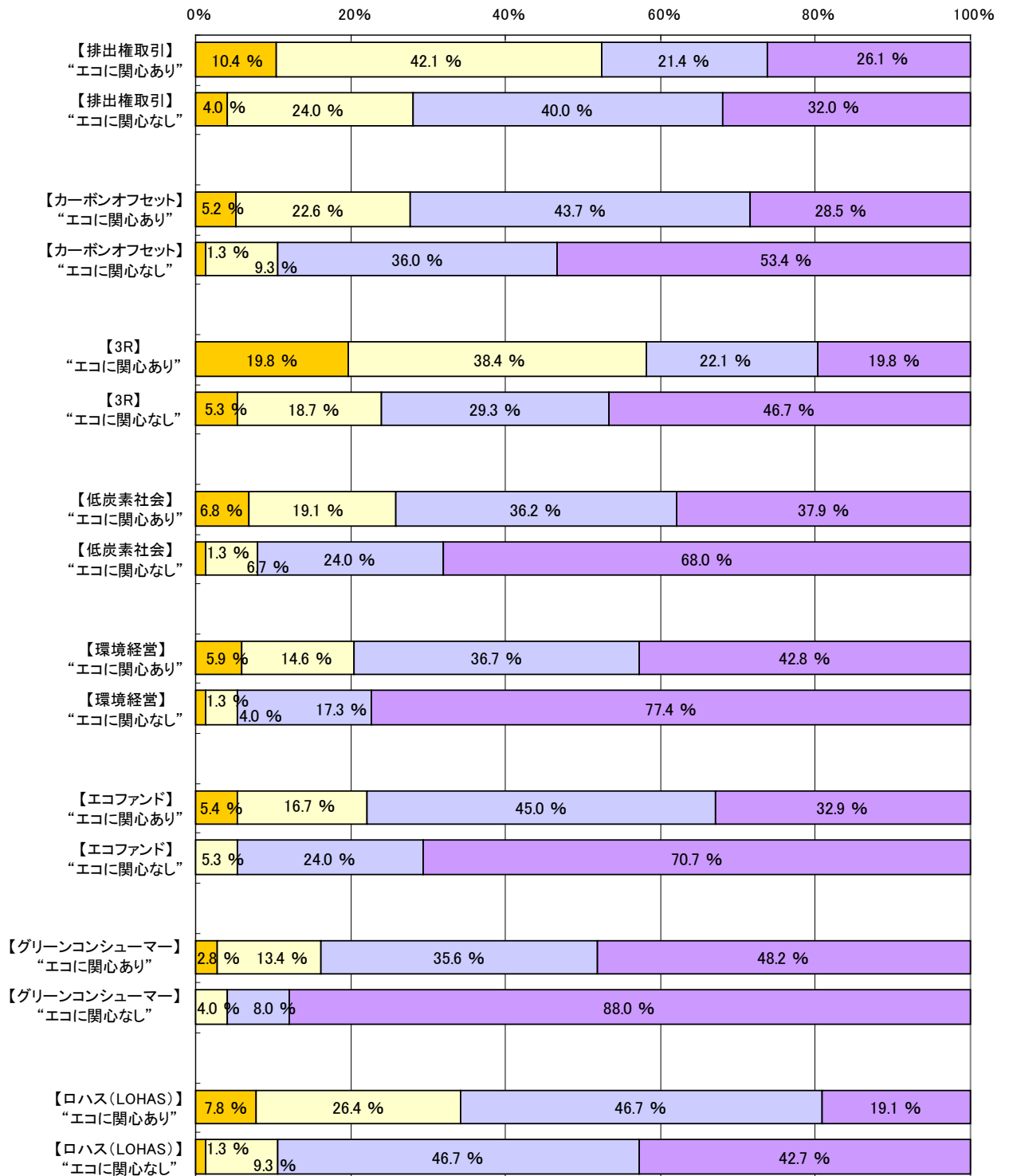
認知度高い項目は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「排出権取引」、一方「グリーンコンシューマー」「環境経営」「低炭素社会」はなじみが薄い様子

Q3 環境問題やエコに関する用語や事柄についての認知度をおうかがいします。



認知度高い項目は「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「排出権取引」、一方「グリーンコンシューマー」「環境経営」「低炭素社会」はなじみが薄い様子

Q3 環境問題やエコに関する用語や事柄についての認知度を教えてください。
 【“エコに関心あり” (N=425)、“エコに関心なし” (N=75)】



よく知っていて他人に説明できる
 ある程度理解している
 聞いたことはある
 知らない

“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった手軽なエコもまだまだ浸透不足

「環境に関する事柄やエコについて、あなたの日頃の行動をおうかがいします。」という質問を、【電気・ガス・水道関連】【乗り物・交通】【ライフスタイル】【その他意識など】の4つの分類にわたって、「必ず取り組んでいる」から「一度も取り組んだことがない」までの5段階評価でおこなった。

【電気・ガス・水道関連】

電気・ガス・水道に関するエコについて13項目にわたって質問したところ、「必ず取り組んでいる」と「頻繁に取り組んでいる」をあわせた“よく取り組んでいる”の回答率が最も高かった項目は、「晴れた日は乾燥機を使用せず天日干しする」73.8%であった。一方「一度も取り組んだことがない」の回答率が最も高かった項目は、「太陽光発電を設置する」83.6%であった。

【乗り物・交通】

乗り物・交通に関するエコについて4項目にわたって質問したところ、“よく取り組んでいる”の回答率が最も高かった項目は、「急発進やからぶかし、急ブレーキ、アイドリングをしない」50.8%であった。一方「一度も取り組んだことがない」の回答率が高かった項目は、「ハイブリッドカーに乗る」85.8%、「カーシェアリングをする」83.0%であった。

【ライフスタイル】

ライフスタイルに関するエコについて8項目にわたって質問したところ、“よく取り組んでいる”の回答率が最も高かった項目は、「ゴミの分別を徹底する」78.8%であった。一方「一度も取り組んだことがない」の回答率が最も高かった項目は、「マイ箸を持ち歩く」64.6%であった。

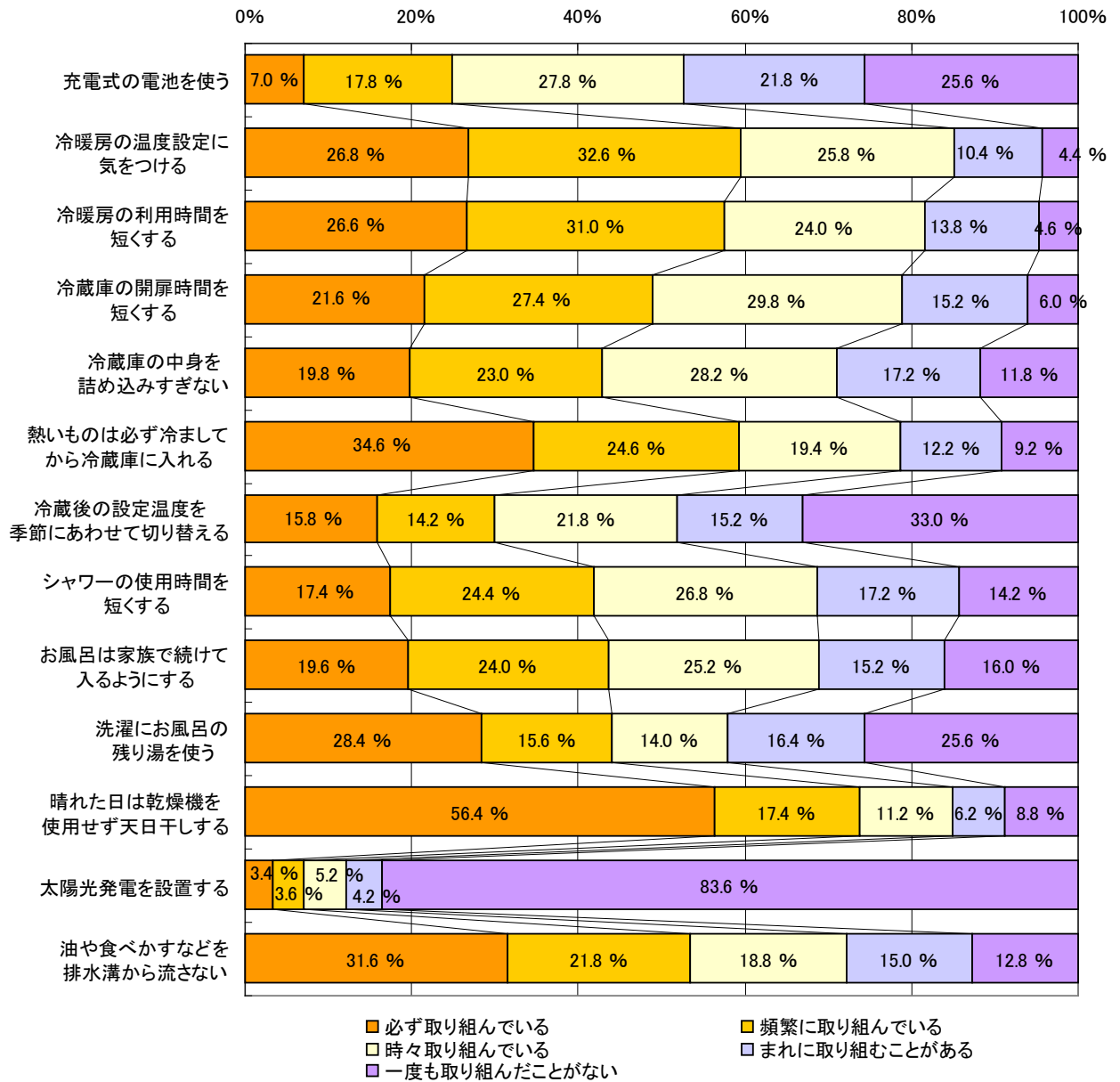
【その他意識など】

上記以外にさらに12項目にわたって質問したところ、“よく取り組んでいる”の回答率が最も高かった項目は、「クールビズ・ウォームビズを取り入れる」39.4%であった。一方「一度も取り組んだことがない」の回答率が最も高かった項目は、「エコファンドに投資する」85.8%であった。

全般的に、時間や費用がかかったり、周りの協力を必要とするような項目について取り組み実績が少ない傾向がうかがえた他、“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった比較的实践しやすい項目についても、まだまだ改善の余地がみられる結果であった。

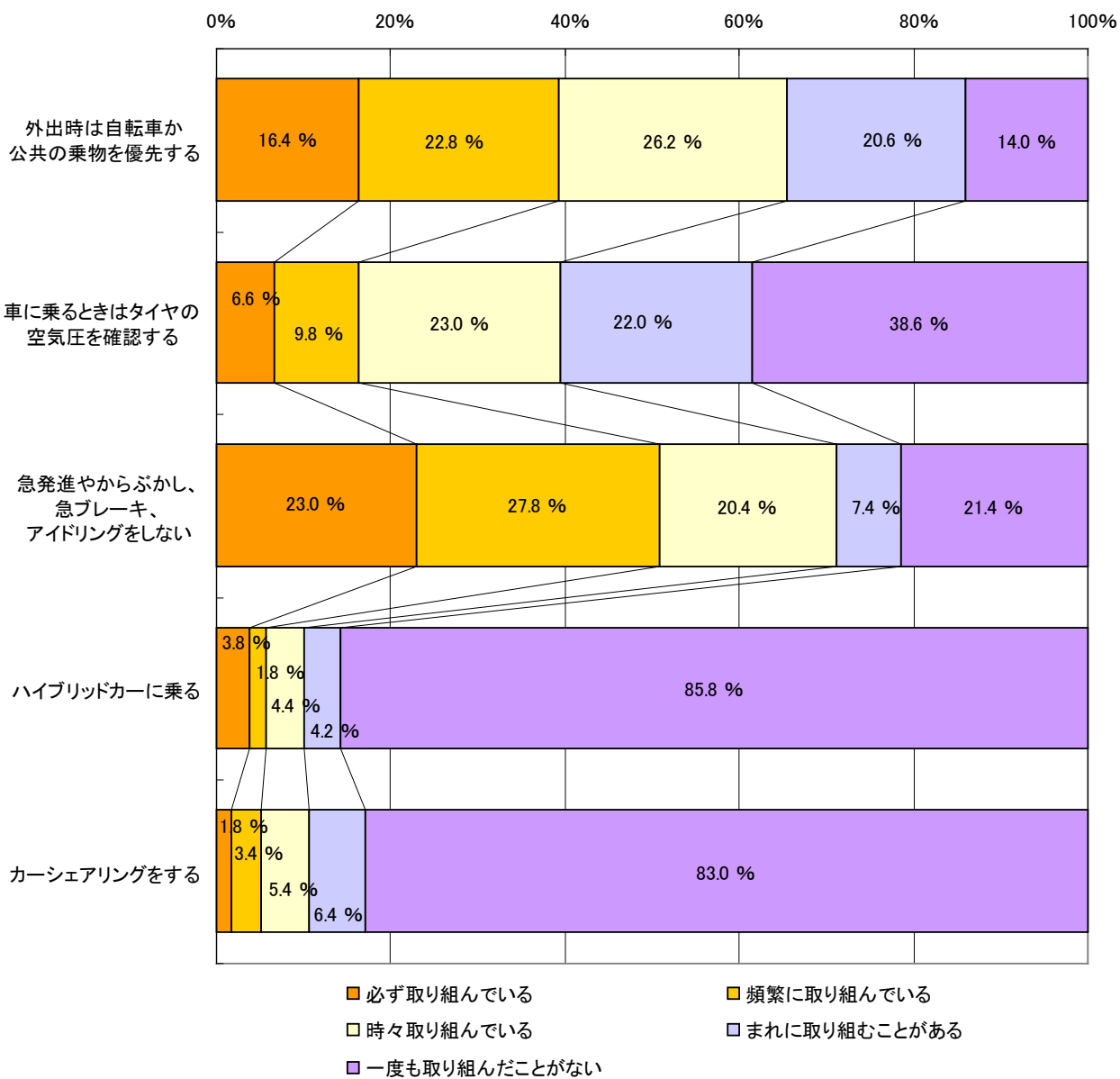
“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった 手軽なエコもまだまだ浸透不足

Q4 環境に関する事柄やエコについて、あなたの日頃の行動をおうかがいします。
【電気・ガス・水道関連】



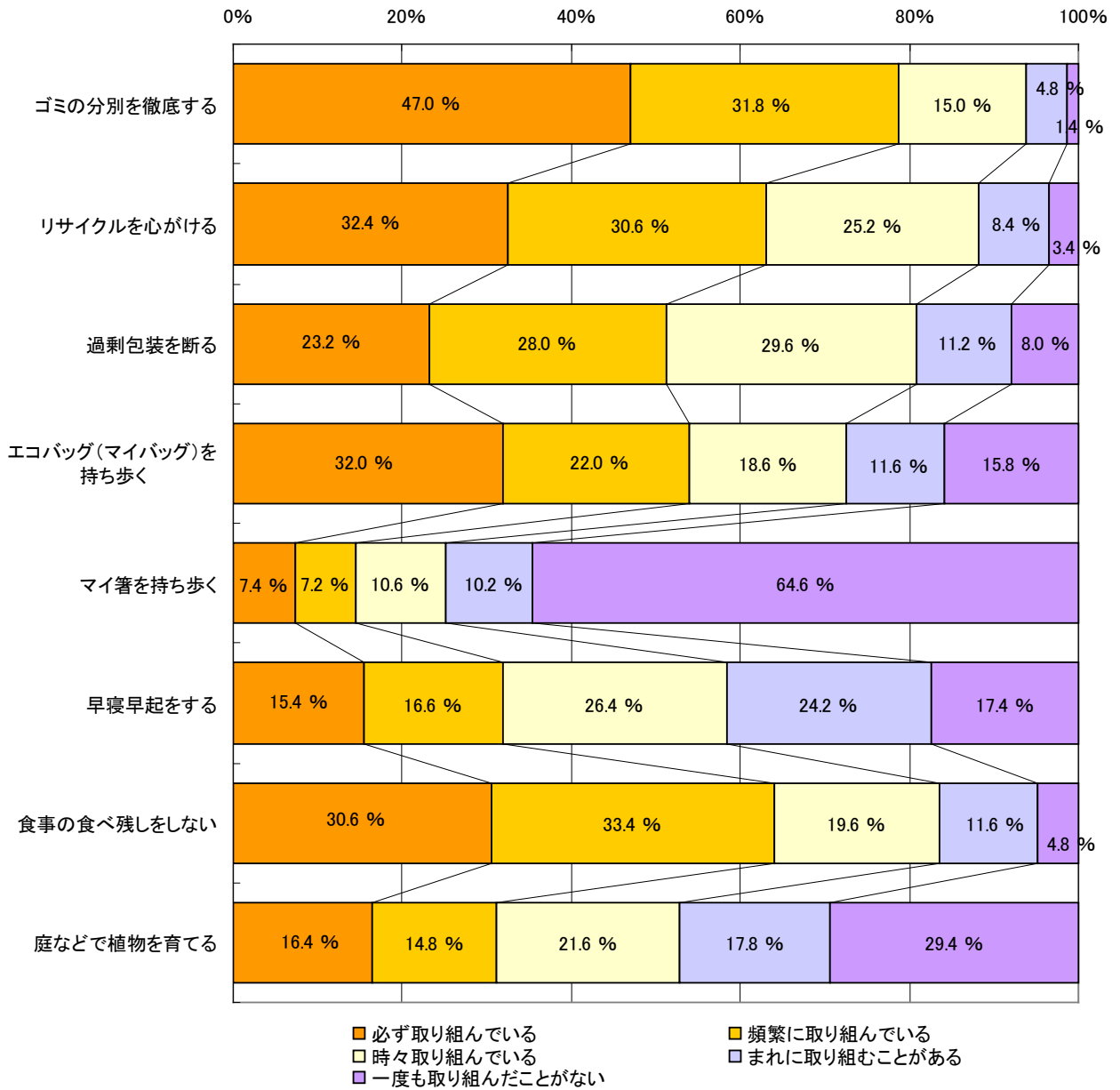
“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった 手軽なエコもまだまだ浸透不足

Q5 環境に関する事柄やエコについて、あなたの日頃の行動をおうかがいします。
【乗り物・交通】



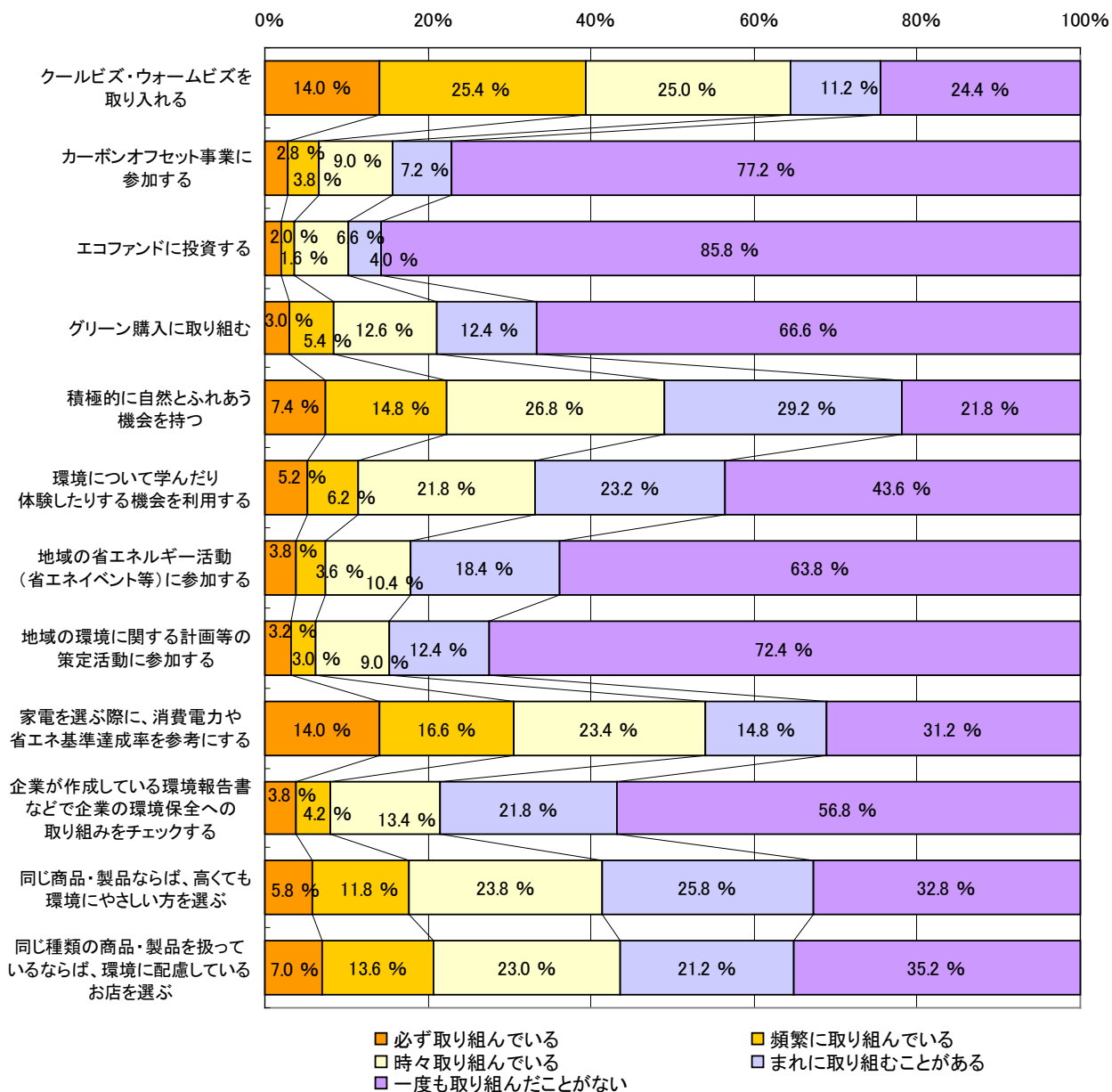
“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった 手軽なエコもまだまだ浸透不足

Q6 環境に関する事柄やエコについて、あなたの日頃の行動をおうかがいします。
【ライフスタイル】



“マイ箸持参”や“季節ごとの冷蔵庫の温度設定切り替え”といった 手軽なエコもまだまだ浸透不足

Q7 環境に関する事柄やエコについて、あなたの日頃の行動をおうかがいします。
【その他意識など】



エコ活動に取り組む理由— “エコに関心なし”は「何となく」「仕方ないから」が6割弱

「あなたがエコ活動に取り組む理由は、どんなものですか？」という質問をおこなったところ、全体では、「取り組むべきだから」の回答率が46.0%と最も高く、次いで「環境にいいことをしたいから」が30.6%、「何となく」が11.8%と続いた。

男女別に特徴的な項目をみると、「環境にいいことをしたいから」では男性よりも女性の回答率が若干高かった。

また、エコに対して関心があるグループと関心がないグループごとにみると、“エコに関心あり”では「取り組むべきだから」の回答率が49.6%と最も高く、次いで「環境にいいことをしたいから」34.6%と続き、8割以上が目的意識を持ち自発的にエコ活動に取り組んでいる様子がうかがえた。一方“エコに関心なし”では「何となく」の回答率が38.7%と最も高く、次いで「取り組むべきだから」が25.3%、「仕方ないから」が17.3%と続き、6割近くが消極的な意識でエコ活動に取り組む様子が垣間見られた。

エコへの関心度合いが、そのままエコ活動に対するモチベーションに反映されていることが推測される結果であった。

エコ活動に取り組む理由— “エコに関心なし”は「何となく」「仕方ないから」が6割弱

Q10 あなたがエコ活動に取り組む理由は、どんなものですか？
最もあなたの気持ちに近いもの一つを選んでください。

